

文部科学省指定校事業

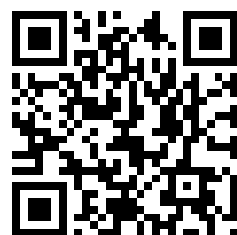
教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び  
(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習・指導方法の改善の推進

国立大学法人新潟大学

新潟大学教育学部附属新潟中学校



★ Educational  
Lab  
FUZOKU NIIGATA J.H.S.



# 生き方を求めて学ぶ生徒



よりよいものを創造していく



他者を尊重し協調する



考えを吟味し判断する



自ら考え行動する



# 附属新潟中学校で育成を図る資質・能力

資質・能力	要素
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"><li>○ <u>実生活で活用</u>できる知識や技能</li><li>○ 専門的分野に通ずる<u>学問的・文化的</u>な知識及び技能</li></ul>
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 課題解決を図るために、解決方法を<u>創造的</u>に考えたり、その方法を<u>批判的</u>に考えたり、他者と<u>協働的</u>に方法を考えたりする思考力</li><li>○ <u>多面的・多角的</u>に考えを吟味して判断する判断力</li><li>○ <u>相手, 目的, 状況</u>を踏まえて、自分の考えを伝える表現力</li></ul>
学びに向かう力, 人間性等	<p>人間性 メタ認知</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 失敗を恐れず、高みを目指し、自分が他に貢献できることを肯定的にとらえようとする<u>自己肯定感</u></li><li>○ 他者の考え・立場・人権等を尊重しようとする<u>協調性</u></li><li>○ 目標を設定したり、目指す方向性を振り返り、考えたりすることによって、学びを自分にとって意味あるものとして関連付けるための<u>メタ認知</u></li></ul>

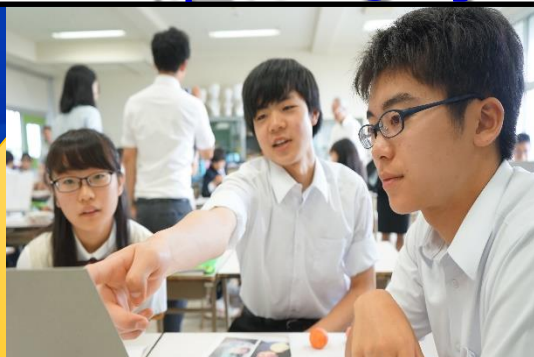
# 対象世界



研究主題(3年次)

豊かな対話を求め、

確かな学びに向かう生徒を育む授業



他者

自己



# 発表内容 (主に授業改善に関して)

① 資質・能力を一体的に活用・発揮させるための学びの再構成のプロセスをデザインするとともに、プロセスを活性化させる「**学びの再構成を促す工夫**」の有効な働き掛けを明らかにすること

② 生徒が資質・能力の高まりを一体的に実感する中で、自らの学習を自己調整しようとする「**主体的に学習に取り組む態度**」の評価方法を明らかにすること

## 新学習指導要領

「主体的・対話的で**深い学び**」を通して、資質・能力を育成することに対応

学力の3要素を基にした**新3観点別評価**に対応

# 学びの再構成のイメージ

身のまわりの世界の見え方やかかわり方の変容  
⇒ **教科等を学ぶ意味**を見いだす

生徒の実感

「一つ一つの知識がつながったぞ！」  
「違った視点で考えると全く違う理解ができたぞ！」  
「もっと深く学びたいな！」  
「習ったことが日常生活に関連していることがわかったぞ！」など

単元・題材で中心となる対象



資質・能力を一体的に活用・発揮





# 目指す生徒

学びの再構成

資質・能力の一体的  
な活用・発揮

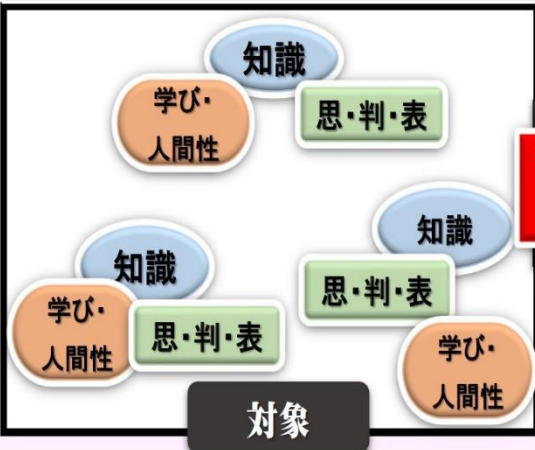
教科等を  
学ぶ意味

対象・他者・自己との対話の中で、学びを再構成しながら、資質・能力を一体的に活用・発揮し、自分にとって教科等を学ぶ意味を見いだすことができる生徒

# 学びの再構成を促す工夫について

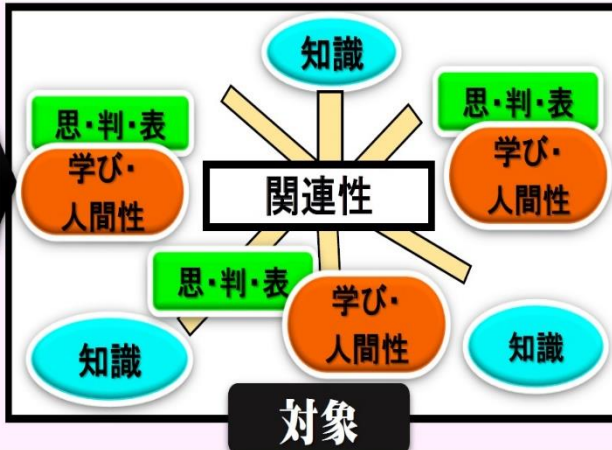
## 過程① 知識及び技能の新たなつながりを生じさせ、関連付けを促す

対象に関する知識及び技能を個々に  
関連付けながら学びを構成させる



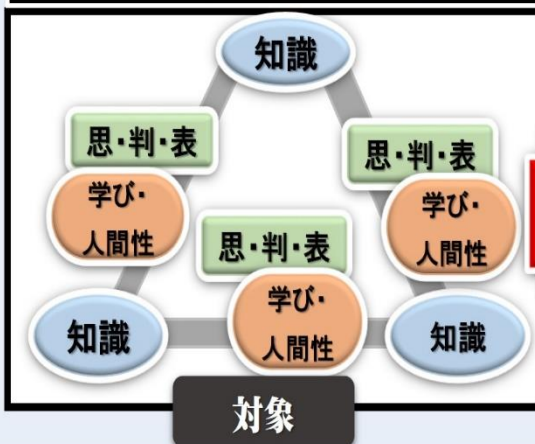
新たな  
対象

対象に関する知識及び技能の  
関連性に気付かせ、学びの再構成を促す



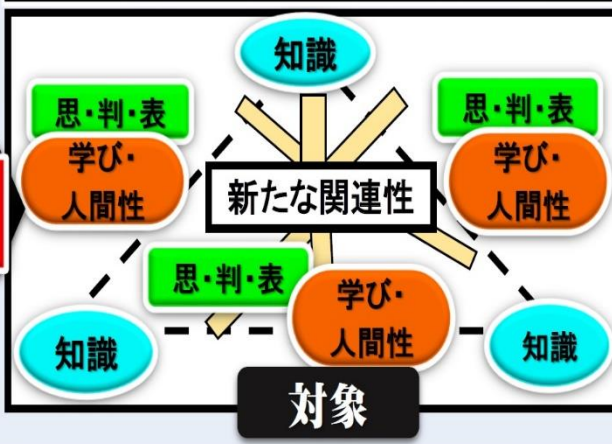
## 過程②: 知識及び技能のつながりをほどこき、新たな関連付けを促す

対象に関する知識及び技能を1つのまとまりとして関連付けながら学びを構成させる



新たな  
対象

対象に関する知識及び技能のつながりをほどこき、  
新たな関連性に気付かせ、学びの再構成を促す



3つの資質・能力の一体的な  
活用・発揮  
⇒概念の形成, 技能の習熟化





視点①知識及び技能の新たなつながりを生じさせ、関連付けを促す

## 実践 I : 社会科

江戸時代の産業や交通の発達(2年)

～新潟町の発展～歴史的分野



江戸時代の産業と町人文化について、産業や交通の発達により、都市が発展したことを江戸時代の新潟町を中心に学習する単元

# 課題

江戸時代の  
新潟町が発  
展した要因  
は何だろう  
か

知識

新田開発

知識

河川交通

知識

西廻り航路

大阪の産業や  
交通の発達

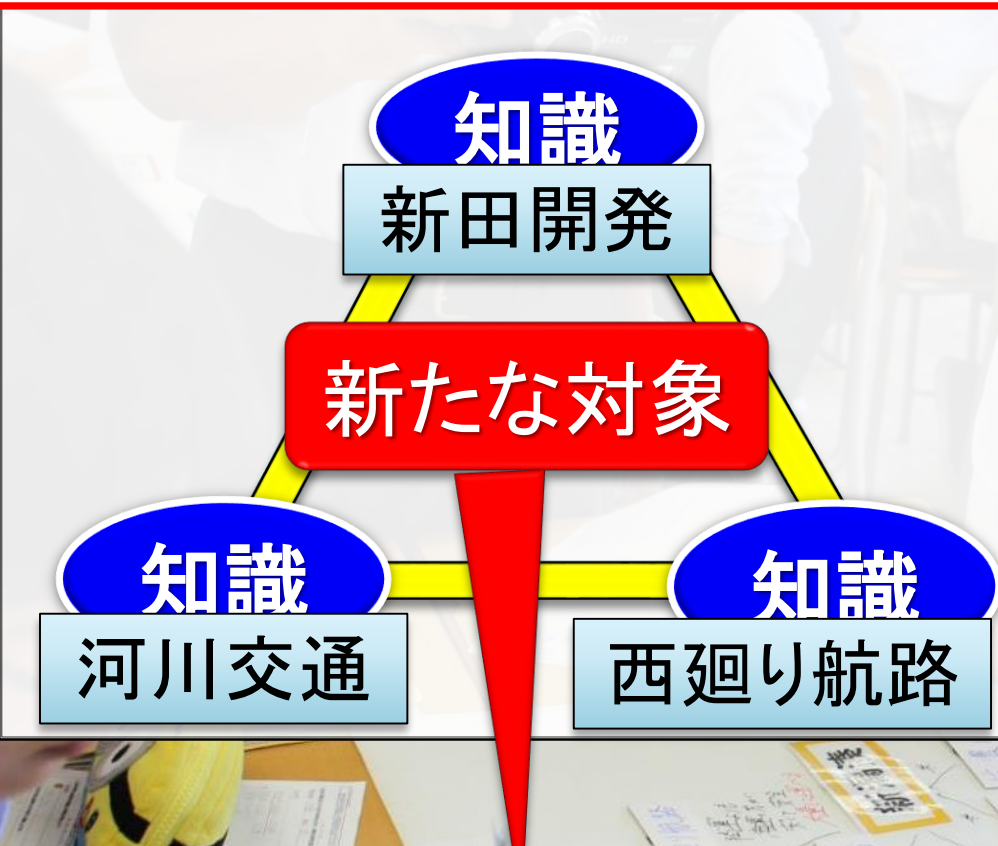
江戸の産業や  
交通の発達





学びの再構成を促す手だて

グループで新潟町が発展した要因を模造紙に**関係図**でまとめる活動を組織する。

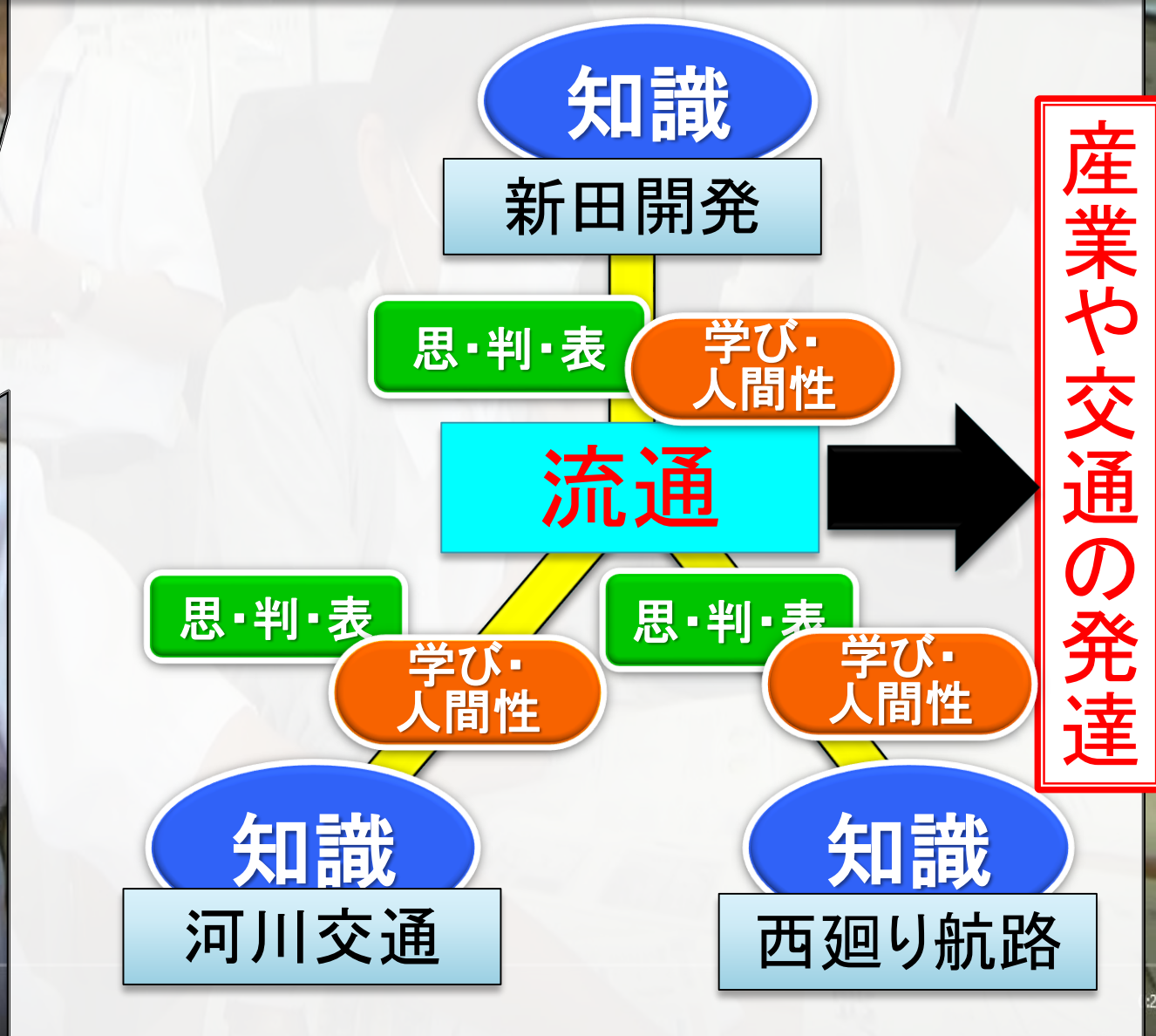


複数の立場から事象をとらえ直させる問い



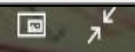
新たな対象によって、生徒が対象を別の視点からとらえ直し、新たな問いをもって追究することになる

# 学びの再構成が促された姿(動画)



0:02:53

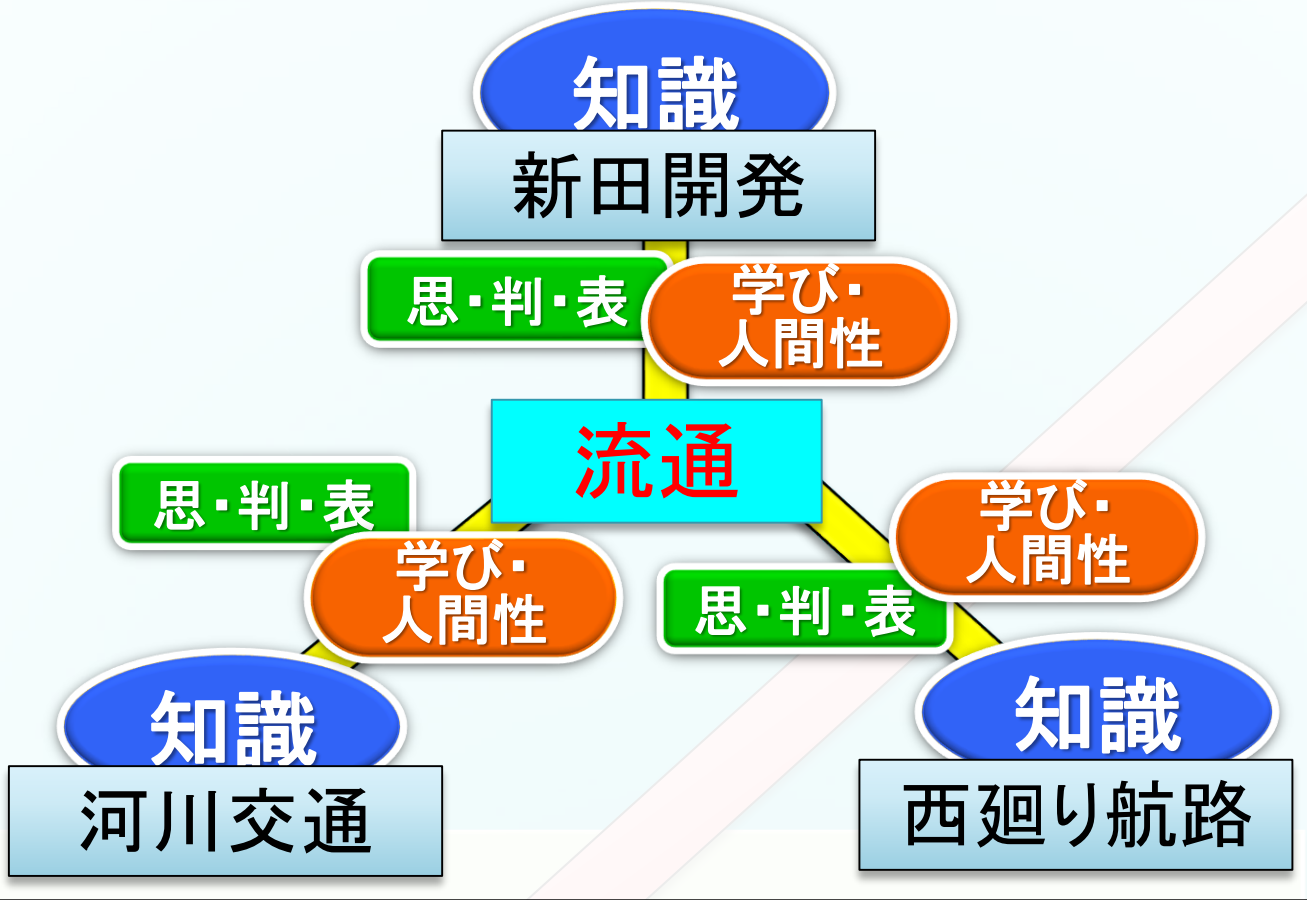
0:21:05





# 深い学びに向かうプロセス

対象：江戸時代の産業や交通の発達



視点①知識及び技能の新たなつながりを生じさせ、関連付けを促す

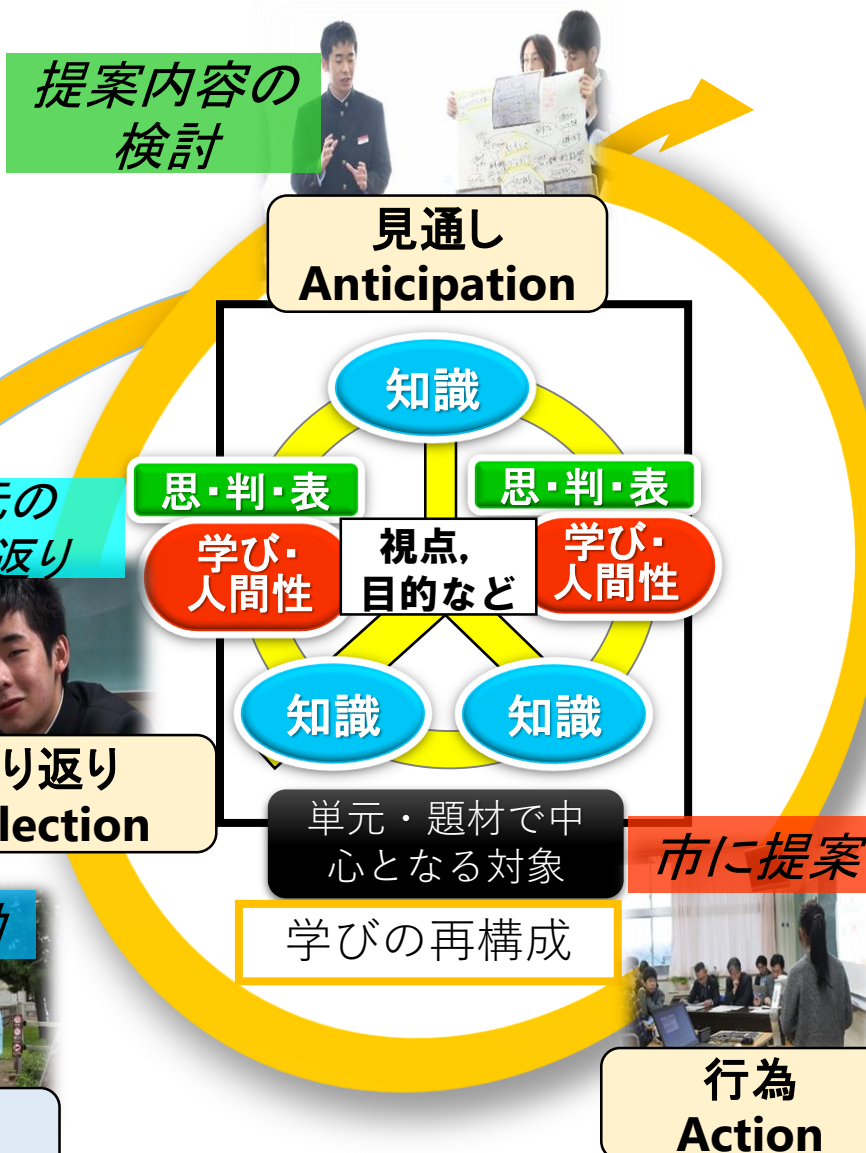
## 実践Ⅱ：総合的な学習の時間

みなとまち新潟の魅力の発見と発信（3年）



新潟市開港150周年記念事業に参画し、みなとまち新潟の魅力について、魅力を発信している方々を訪問し、調査活動で得た複数の情報や思いなどを関連付けながら、探究課題を追究する単元

# 資質・能力を一体的に活用・発揮させるために見通し, 行為, 振り返りの連続した学びの再構成のプロセス



単元の振り返り (Reflection on the unit)

調査活動 (Investigation activity)



調査のまとめ (Summary of investigation)

振り返り Reflection



# 実践ビデオ

<https://innovativeschools.jp/study/recode/>

本ビデオでは

9年生が港町新潟の

魅力を発信する探究学習を実施した様子を

Action => Reflection => Anticipation =>

次のAction=>更なるReflectionの構成で

描いています

# 教科等を学ぶ意義を見いだした姿

対象：「みなとまち新潟の魅力」



生徒A：将来、自分がかかわる仕事や集団において、授業で気付いた『人と人のつながり』を大切にし、新たなものを創りたい！ **社会参画の芽生え**

学びの再構成（身のまわりの世界の見え方やかかわり方の変容）

↓  
自分がかかわるものを変えたい

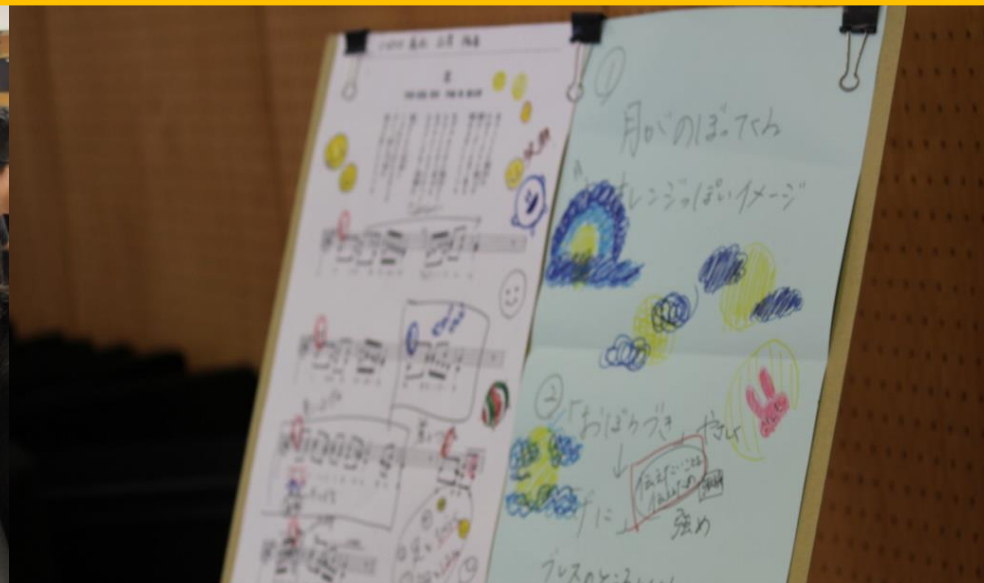
↓  
新たな価値の創造



## 実践Ⅲ：音楽

日本の歌曲（3年）

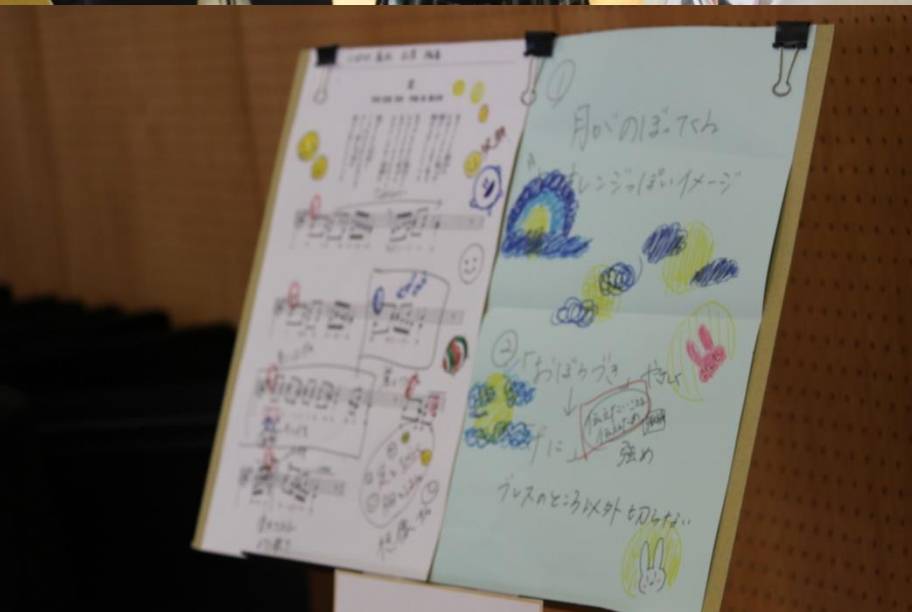
教材：「夏の思い出」「花」「椰子の実」「荒城の月」等



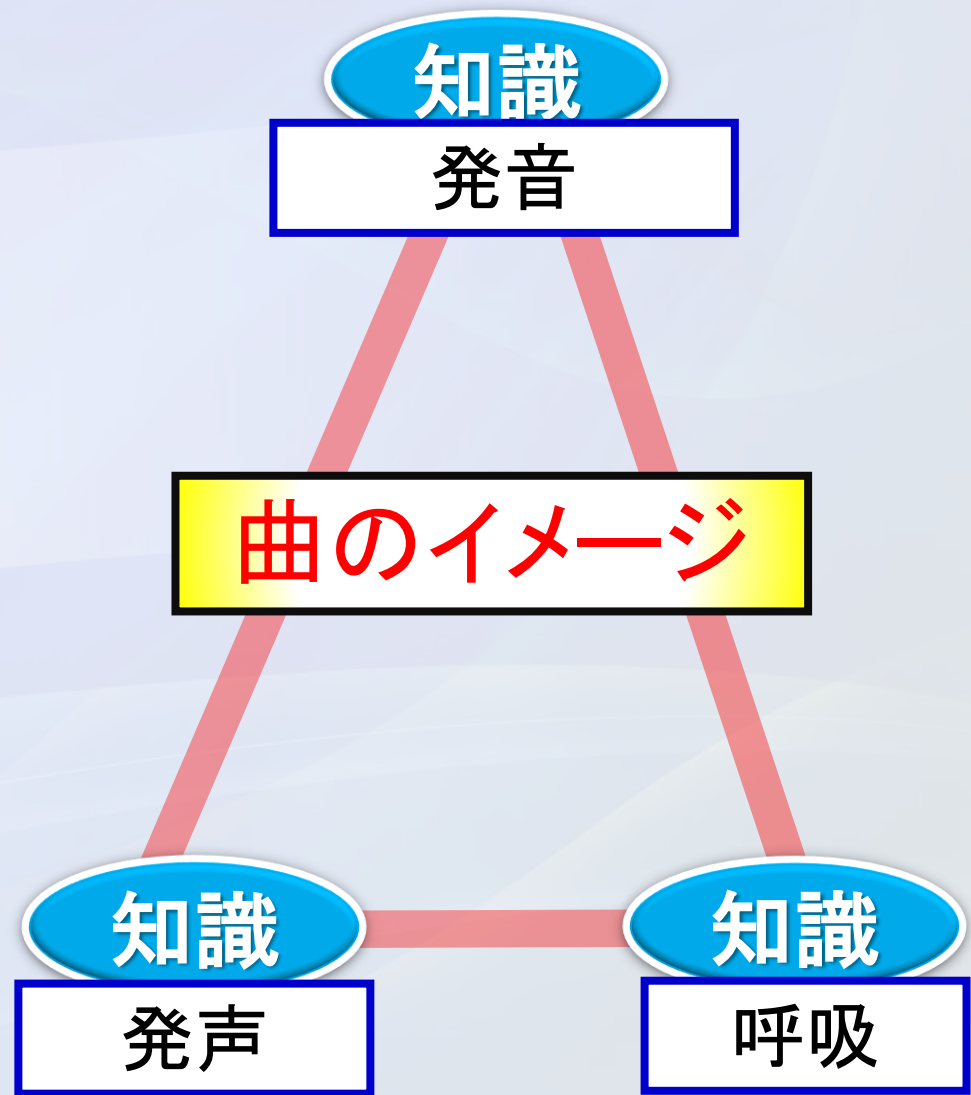
追求の観点（発音，発声，呼吸）を基に，曲想と自分の思いや意図を関連付け，日本の歌曲にふさわしい歌い方を追求する題材構想



# グループで日本の歌曲 を選択し、試行する



曲のイメージに合わせて歌う  
ことに重点を置く



# 学びの再構成を促す工夫 ゲストティーチャーによる 範唱と助言



新たな歌い方に気付く=見通し  
(Anticipation)

ゲストティーチャーの範唱  
や助言により, これまでの  
知識のつながりがほどけ,  
新たな歌い方に気付き, 学  
びの再構成が促される

曲想と思いとの関連性が大切  
なことに気付く





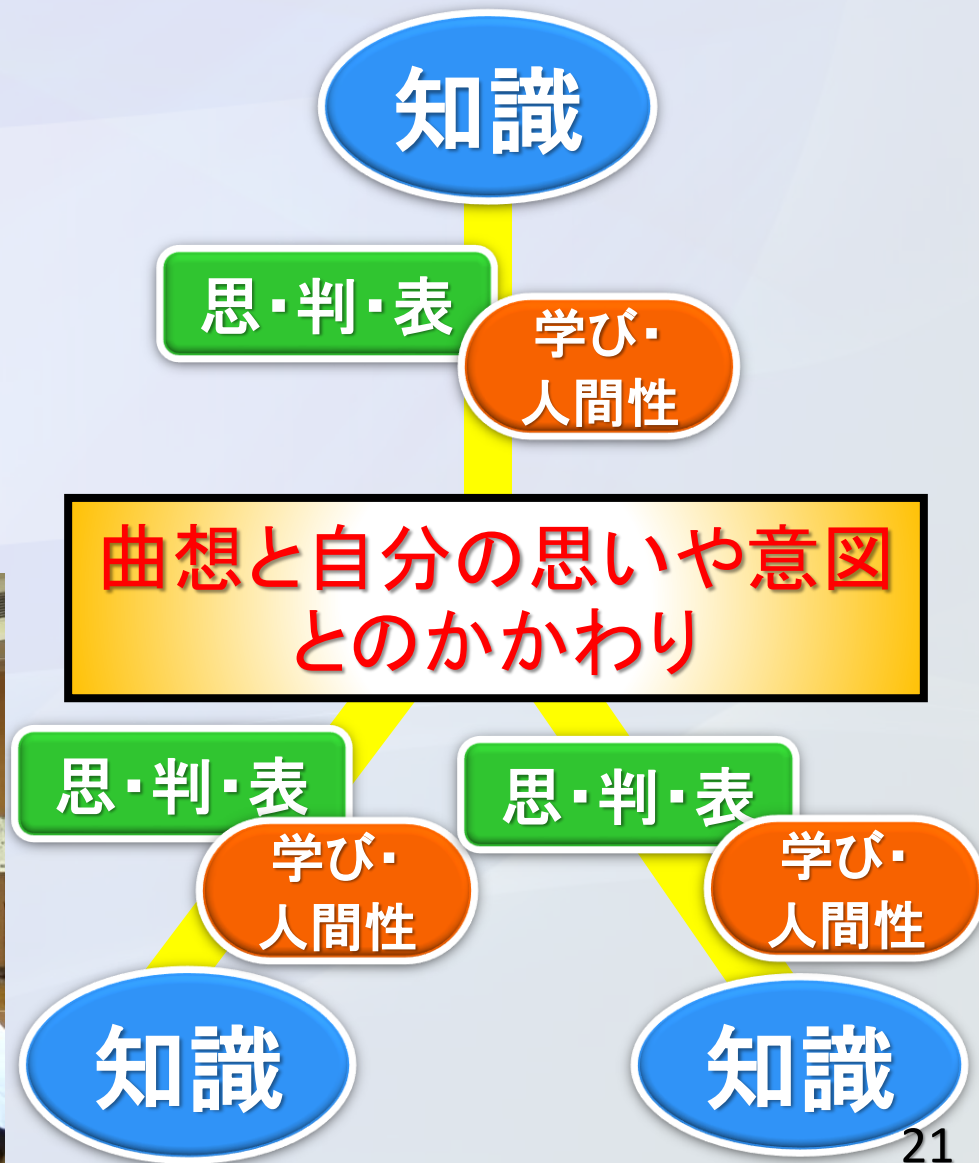
# グループでの試行活動



新たな歌い方の試行=行為  
(Action)

追求の観点を基に、曲想と  
思いや意図とが少しずつ関  
連付いていく

観点を基に、音楽的要素  
の働きを感受し始める





歌い方の分析＝振り返り  
(Reflection)

自分たちの演奏を省察的に分析することで、曲想と思いや意図が関連付く

「楽譜を基に、もっとアレンジしたい」  
＝曲想と自分たちの思いや意図に合った新しい表現を創り出したい

# 教科等を学ぶ意義を見いだした姿



対象:「日本の歌曲にふさわしい歌い方」

対象から  
新たな価値の創造

知識

思・判・

学び・  
人間性

曲想と自分の思いや意図  
とのかかわり

思・判・

学び・  
人間性

思・判・

学び・  
人間性

知識

知識

生徒A:日本の歌曲など伝統的な曲をイメージなどでなく、**自分の伝えたい思いや意図を基に、新しい表現がしたい!**  
→**伝統文化に対する新たな価値の創造**

学びの再構成(身のまわりの世界の見え方やかかわり方の変容)  
↓  
伝統文化の新しい解釈や表現のおもしろさ  
↓  
新たな価値の創造



# GPS-Academic (Benesse)

## 社会で必要な3つの思考力のアセスメント

3年生の結果 (昨年度末の卒業生)

2年間の結果の比較

		2018	2017
気づく力 (批判的思考力)	情報を取り出して吟味する	B	B
	論理的に組み立てて表現する	A	B
かかわる力 (協働的思考力)	他者との共通点・違いを理解する	A	B
	社会に参画し, 人とかかわりあう	B	B
ひらめく力 (創造的思考力)	情報をつなぐ・他のことに応用する	A	B
	問題を見つけ, 解決策を生み出す	A	B <sub>24</sub>

# 発表内容 (主に授業改善に関して)

① 資質・能力を一体的に活用・発揮させるための学びの再構成のプロセスをデザインするとともに、プロセスを活性化させる「**学びの再構成を促す工夫**」の有効な働き掛けを明らかにすること

② 生徒が資質・能力の高まりを一体的に実感する中で、自らの学習を自己調整しようとする「**主体的に学習に取り組む態度**」の評価方法を明らかにすること

## 新学習指導要領

「主体的・対話的で**深い学び**」を通して、資質・能力を育成することに対応

学力の3要素を基にした**新3観点別評価**に対応

# 新3観点別評価に対応した実践

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

## プログレスカードの活用

教科で育成を図る資質・能力を単元・題材のまとまりで明確化し、生徒に明示する

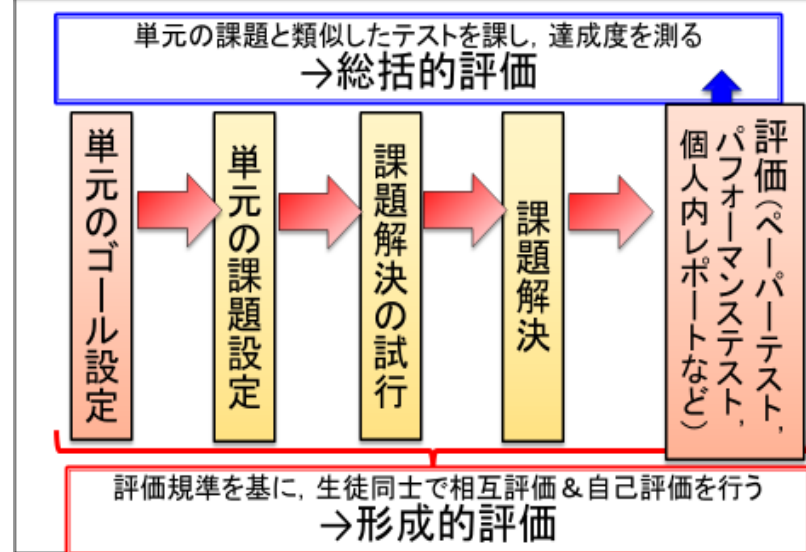
教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語												
社会												
数学												
理科												
音楽												
美術												
保健体育												
技術												
英語												
道徳												
特別活動												
総合学習												

プログレスカード 教科学習に対する学びの変容(成長)を可視化するポートフォリオ



## 形成的評価と総括的評価の視点から生徒の主体性を引き出す

形成的評価と総括的評価の視点から生徒の主体性を引き出す





# 教科で育成を図る資質・能力を単元・題材のまとまりで明確化し、生徒に明示する

教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	<b>【理科】</b> 思考力・判断力・表現力等 科学的根拠を基に概念を関連付ける											
社会												
数学												
<b>理科</b>												
音楽	<b>【技術】</b> 思考力・判断力・表現力等 構想・試作を通して、技術やその効果を評価したり、活用したりすること											
美術												
保健体育												
<b>技術</b>												
<b>英語</b>												
道徳	<b>【英語】</b> 思考力・判断力・表現力等 目的や場面、状況などに応じて、考えを伝え合う											
特別活動												
総合学習												

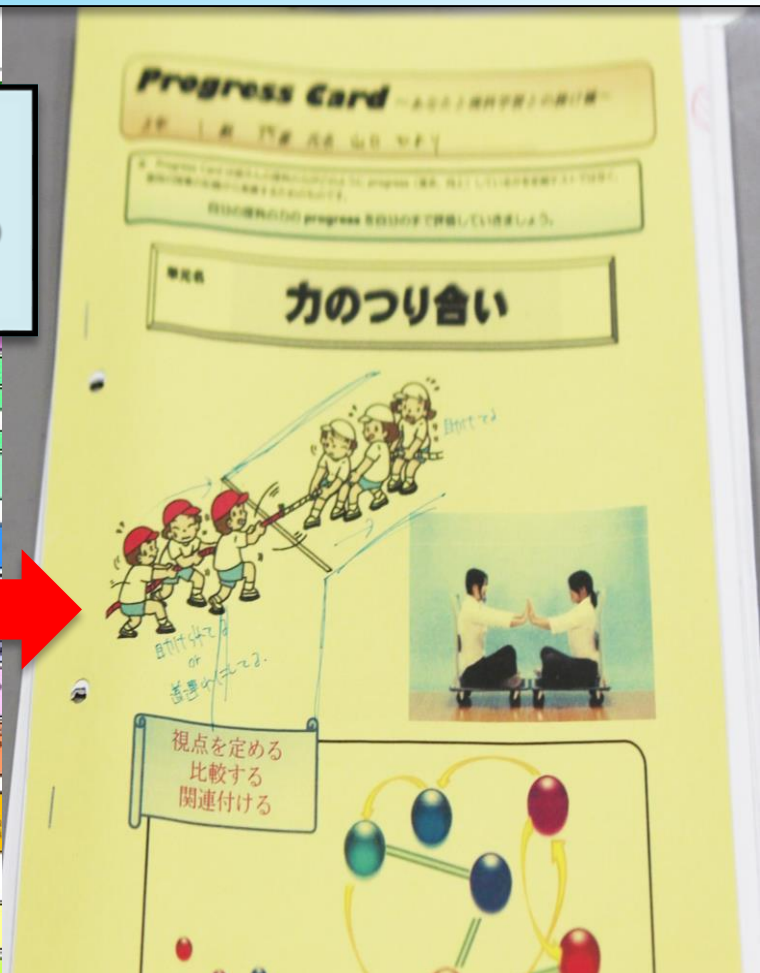
# プログレスカードを活用した カリキュラム・デザインの実践

(例)理科3年

6月 7月 8月 9月 10月

単元: 力のつり合い  
条件制御する, データ処理(グラフ化)する  
視覚化(矢印など)する

国語 (学校図書) 書写: 本単元の時間 140時間	古語・漢字の読み 詩の構成、語彙	NE 情緒の読み、美的 感動の要素	めづりし生きる 感動の要素	文章・言語事項	めずりと語 作品の転写、手紙	文章・言語事項
社会 (道徳教科書) 105時間	世界の様々な地域 ① 世界の様々な地域 ② 世界の様々な地域 ③ 世界の様々な地域	世界の様々な地域 ① 世界の様々な地域 ② 世界の様々な地域 ③ 世界の様々な地域	世界の様々な地域 ① 世界の様々な地域 ② 世界の様々な地域 ③ 世界の様々な地域	世界の様々な地域 ① 世界の様々な地域 ② 世界の様々な地域 ③ 世界の様々な地域	世界の様々な地域 ① 世界の様々な地域 ② 世界の様々な地域 ③ 世界の様々な地域	世界の様々な地域 ① 世界の様々な地域 ② 世界の様々な地域 ③ 世界の様々な地域
数学 (教科書) 140時間	数の数・量の観 察し、数の概念を理解する	数の数・量の観 察し、数の概念を理解する	数の数・量の観 察し、数の概念を理解する	数の数・量の観 察し、数の概念を理解する	数の数・量の観 察し、数の概念を理解する	数の数・量の観 察し、数の概念を理解する
理科 (学校図書) 105時間	生物の観察 必要な情報を抽出・整理する	力と圧力(2力のつり合いを学ぶ) 変化(矢印など)する, 条件制御する, 結果を拡張(グラフ)	力と圧力(2力のつり合いを学ぶ) 変化(矢印など)する, 条件制御する, 結果を拡張(グラフ)	力と圧力(2力のつり合いを学ぶ) 変化(矢印など)する, 条件制御する, 結果を拡張(グラフ)	力と圧力(2力のつり合いを学ぶ) 変化(矢印など)する, 条件制御する, 結果を拡張(グラフ)	力と圧力(2力のつり合いを学ぶ) 変化(矢印など)する, 条件制御する, 結果を拡張(グラフ)
音楽 (教科書) 48時間	楽器 効果的な身体を使い方を身につけて歌う	楽器 効果的な身体を使い方を身につけて歌う	楽器 効果的な身体を使い方を身につけて歌う	楽器 効果的な身体を使い方を身につけて歌う	楽器 効果的な身体を使い方を身につけて歌う	楽器 効果的な身体を使い方を身につけて歌う
美術 (日本文芸出版) 45時間	文字のデザイン 形を視覚的に平面の形を伝える	文字のデザイン 形を視覚的に平面の形を伝える	文字のデザイン 形を視覚的に平面の形を伝える	文字のデザイン 形を視覚的に平面の形を伝える	文字のデザイン 形を視覚的に平面の形を伝える	文字のデザイン 形を視覚的に平面の形を伝える
保健体育 (学研) 105時間	体のつり運動 体を動かす心身の動きを伝える	体のつり運動 体を動かす心身の動きを伝える	体のつり運動 体を動かす心身の動きを伝える	体のつり運動 体を動かす心身の動きを伝える	体のつり運動 体を動かす心身の動きを伝える	体のつり運動 体を動かす心身の動きを伝える
技術家庭(技術分野) (実習書籍) H30年度入学生 35時間	技術家庭(技術分野) (実習書籍) H30年度入学生 35時間	技術家庭(技術分野) (実習書籍) H30年度入学生 35時間	技術家庭(技術分野) (実習書籍) H30年度入学生 35時間	技術家庭(技術分野) (実習書籍) H30年度入学生 35時間	技術家庭(技術分野) (実習書籍) H30年度入学生 35時間	技術家庭(技術分野) (実習書籍) H30年度入学生 35時間
技術家庭(家庭分野)	技術家庭(家庭分野)	技術家庭(家庭分野)	技術家庭(家庭分野)	技術家庭(家庭分野)	技術家庭(家庭分野)	技術家庭(家庭分野)



○ **プログレスカード**を活用し, **デザインしたカリキュラムの単元・題材化** = **確実に実施**

# プログレスカード (松沢, 2002)

教科学習に対する学びの変容  
(成長)を可視化する**ポートフォリオ**

## 形成的評価の促進

始め

中

終わり



理科

(1年生)

力のはたらき

①何ができるようになることが期待されているかを生徒に示す生徒用学習シラバスとしての機能

**Progress Card** ~あなたと理科学習との掛け橋~

単元名 **力のはたらき**

組 番 氏名

1 単元の目標<ゴール>

**思考力・判断力・表現力等**

様々な力の種類や働き方などの性質をもとに、力が働くかどうかを説明することができる。

資質・能力の3つの柱(知識及び技能, 思考力・判断力・表現力等, 学びに向かう力, 人間性等)から, 焦点化して育成する資質・能力を単元化する

# 理科

(1年生)

力のはたらき

## ②生徒が自分自身で課題達成の様子をモニターする機能

### 2 身に付けるべき知識・技能

※自己評価はA・B・Cの3段階で評価します。

項目	身に付けた具体的な姿	自己評価
力の3要素と様々な力	力の3要素を説明することができる。 様々な力の種類を説明できる。	A B C
力の表し方	力を矢印で表したり、矢印で表された力を説明したりできる。	A B C
力と重さ	重さと質量の違いを理解している。 重さと力の関係を説明できる。	A B C
フックの法則	フックの法則を理解している。 安全かつスムーズに実験を行い、結果を記録できる。	A B C
つり合い	つり合いの条件を理解している。 つり合いの関係にある2力を説明できる。	A B C

a

b

c

**a.** 単元で習得すべき知識・技能などを, **b.** 具体的な姿を基に, **c.** 自己評価する。→ **自己調整**

**理科**  
(1年生)  
力のはたらき

③生徒が学習成果の評価を自分で実施、記録し、教師に伝える機能

この単元の学習をして、興味を持ったり、さらに探究してみたいことは？また単元の学習内容が社会で役に立つことは？

**Progress Card** ~あなたと理科学習との掛け橋~

4 単元を通しての振り返り

(1) 単元の目標を達成することができましたか。

できない ← できた

理由

様々な力について、それぞれがどのような力なのか、どのようなときにはたらくのかなどのことを理解することができたから。また、それについての知識を利用して、様々な問題に挑戦するとき、自分の考えも考えながら解くことができたから。しかし一方で、テストで間違え

学びに向かう力に関連した新たな問いを可視化  
→メタ認知

授業で先生が見せてくださったレクサスのCMでのホバーボードは、何か煙のようなものが出ていたが、それはどんなしくみで浮いているのか？  
日常からいろいろな現象についてどのような力が働いているか考えたい。

力のはたらき方や様々な力について正しい知識をもっていれば、重い荷物を運ぶなどの作業をするときに、どうすればより軽く荷物を持ち上げられるか、もっと容易に考えることができるのではないか。それにより、作業の効率が上がったたり、楽になったりすると思う。

<p>興味を持ったことやさらに探究してみたいこと</p> <p>・レクサスのCMでホバーボードは、何か煙のようなものが出ていたが、それはどんなしくみで浮いているのか？</p> <p>・日常から、いろいろな現象についてどのような力がはたらいているか考えたい。</p>	<p>社会や仕事との関連</p> <p>・力のはたらき方や様々な力について正しい知識をもっていれば、重い荷物を運ぶなどの作業をするときに、どうすればより軽く荷物を持ち上げられるか、もっと容易に考えることができるのではないか。それにより、作業の効率が上がったたり、楽になったりすると思う。</p>
--	---



Q: プログレスカードによって単元のゴールが示されることで、単元の学習がどのように変わりましたか？

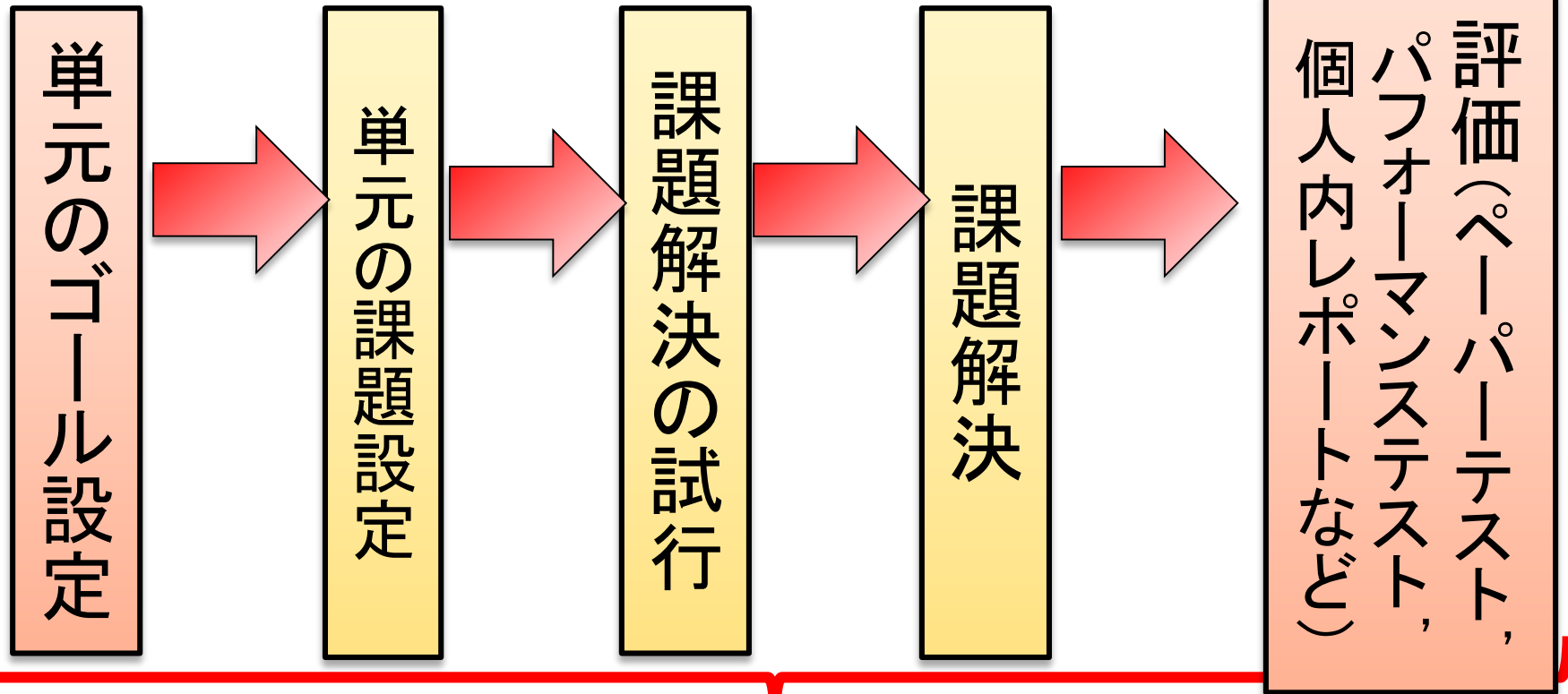
(生徒インタビュー動画)

プログレスカードが学習シラバスとなり、生徒が1つ1つの学習活動で何を身に付ければいいのか明確な目標をもって学習に取り組むようになる→自己調整

プログレスカードが学びの履歴になり、生徒が単元の学習過程を振り返り、次の学びにつなげるようになる→メタ認知

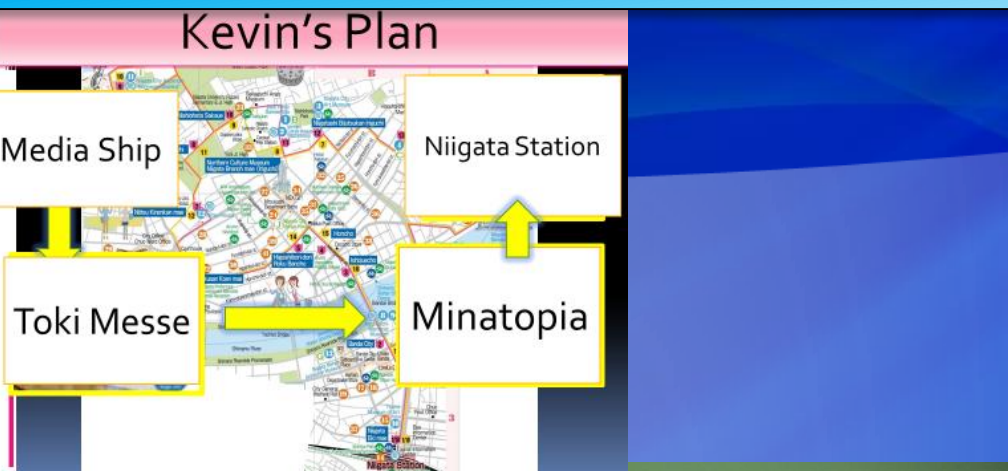
# 形成的評価と総括的評価の視点から生徒の主体性を引き出す

単元の課題と類似したテストを課し、達成度を測る  
→総括的評価



評価規準を基に、生徒同士で相互評価 & 自己評価を行う  
→形成的評価

## Lesson 7 特設単元・ディスカッション(1年)



ALTが友人と巡る新潟市の観光の計画に対して、観光スポットで具体的に何ができるのか、グループで助動詞canを活用しながら議論し、アドバイスする単元



# 課題解決に必要なポイント(=評価規準になるもの)を生徒と共有し, 確実に習得, 活用できるようにする



単元を通して, 目指す建設型ディスカッションの具体

構成	内容・言語
主張	<input type="checkbox"/> 観光スポット I think ○○ is a good sightseeing spot. <input type="checkbox"/> お薦め理由(できること) I think they can do ○○ things at △△. First, they can ○○. Second, they can △△.
意見	<input type="checkbox"/> 相手の考えに対して, 肯定する意見 I agree with him. They can ○○. <input type="checkbox"/> 相手の考えに対して, 他にできることを建設的に付け足す意見 They can also ○○. / I also think they can ○○.
整理	<input type="checkbox"/> まとめ We have □□ new ideas. First, they can ○○. Second, they can △△.

教師と共有した評価規準を相互評価, 自己評価させながら, 生徒のものにしていく → **自己調整**

# 授業や学習に埋め込まれた評価課題

## 単元の課題

【英語科の実践】  
ALTが友人と巡る新潟市の観光の計画に対して、観光スポットで具体的に何ができるのかを議論し、アドバイスする課題

生徒の実力が一番高まったときに、課題に類似した評価課題を設定

評価課題（パフォーマンステストなど）

【英語科の実践】  
留学生の日本の観光旅行計画に対して、観光スポットで具体的に何ができるのかを議論し、アドバイスする評価課題

# 評価課題設定の工夫

## パターン1 パーツ組み立て型

→単元の最後に総合的なパフォーマンスが位置付けられているもの。

## パターン2 繰り返し型

→基本的に同じようなパフォーマンス課題を繰り返すもの。

## パターン3 折衷型

→1, 2の折衷型。単元の最初でパフォーマンス課題にとりあえず取り組ませ、その上で必要な要素について洗練させていき、最後にもう1度パフォーマンス課題に取り組ませるもの。

「パフォーマンス課題の位置づけ」(西岡2008, 2019) 38



【繰り返し型】 実践 I で紹介した社会科の場合  
単元で繰り返し追究してきた新潟町の産業と交通の発達に関して、課題に類似した定期考査の実施

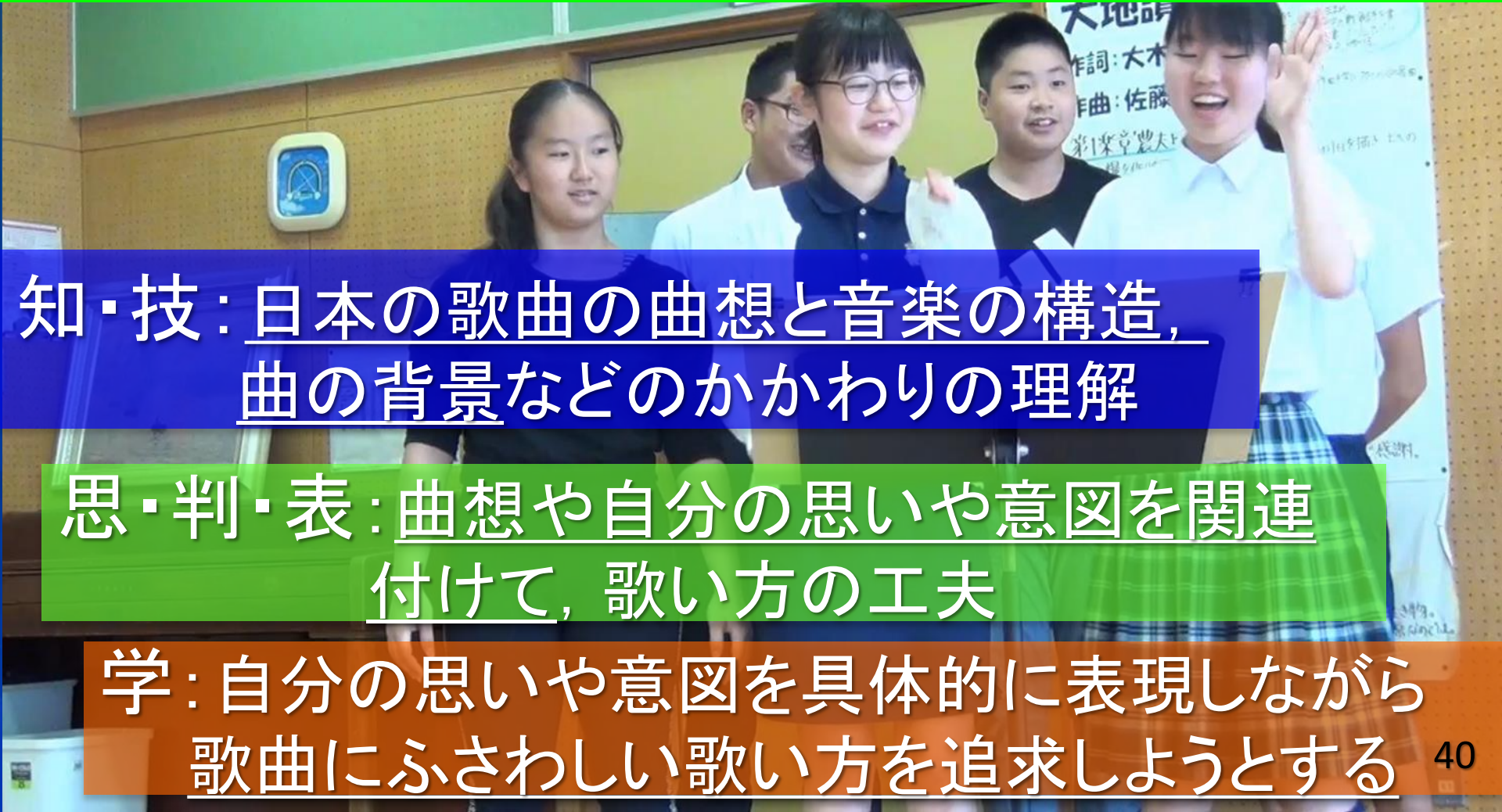
## 定期考査の問題

下に示した5つの地名や組織を用いて、新潟町の発展の要因を表した関係図を完成させなさい。その際、[米・お金・特産物・河川交通・新田開発・西廻り航路]の語句は必ず用いること。

新潟町    新潟湊    越後    大坂    江戸幕府

# 【折衷型】 実践Ⅲで紹介した音楽科の場合

題材の最初に日本の歌曲の演奏を発表した後，必要な音楽を形づくる要素やその働きを学習させ，単元の最後にもう一度，自分たちが追求してきた歌い方で発表させる課題



知・技：日本の歌曲の曲想と音楽の構造，曲の背景などのかかわりの理解

思・判・表：曲想や自分の思いや意図を関連付けて，歌い方の工夫

学：自分の思いや意図を具体的に表現しながら歌曲にふさわしい歌い方を追求しようとする



# 新潟大学教育学部 附属新潟中学校 研究推進の構想図

## 研究成果の普及方策

教育研究発表会ならびに  
年間3回の研修会の開催

- 全体講演会、フォーラムなど参観者のニーズに対応し、全国の著名な講師を招いた教育研究会、ならびに研修会の実施
- 県内、市内近隣の学校と新学習指導要領の方向性の共有

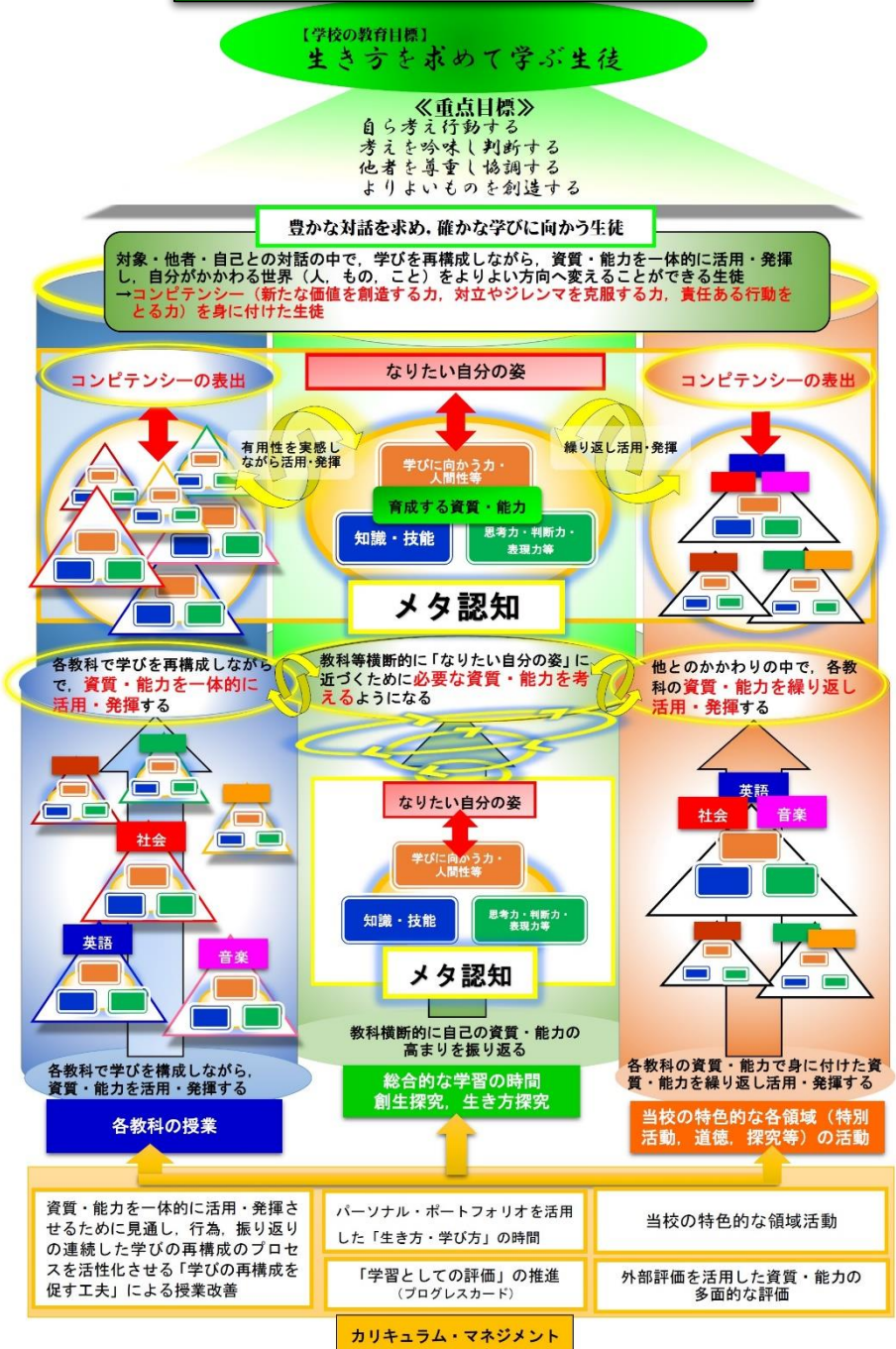
## ホームページの活用

- 事業成果を、全体、教科別に分け、ホームページにアップし、手軽に資料をダウンロードできる環境整備

## 事業報告書の発信

- 事業成果を報告書にまとめ、教育研究発表会で配布、全国の附属学校等に送付

# 研究課題への取組



教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進

## 外部連携事業

### 実践協議会の設置

- 全国の教育を牽引する後藤顕一氏（東洋大学）、石井英真氏（京都大学大学院）、寺本貴啓氏（國學院大学）、一柳智紀氏（新潟大学大学院）による実践協議会を設置し、先進的な見識から研究を推進

### ベネッセとの連携

- GPS-Academicの実施
- 資質・能力の多面的な評価のために、3つの思考力を測るGPS-Academicの活用

### OECD日本イノベーション教育ネットワークとの連携

(Japan Innovative Schools Network supported by OECD)

- OECD Learning Framework2030を取り入れた研究の推進



# 先進的な見識を得るための実践協議会ならびに教育研究会の設定

新たな時代になっても、新たな社会になっても、自分の生き方を求めて学ぶ生徒の育成を目指して…

文部科学省指定校 教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び  
(アクティブ・ラーニング)の観点から  
学習・指導方法の改善の推進事業  
新潟大学教育学部附属新潟中学校  
教育研究発表会案内[1次] 令和元年10月18日(金)

全体講演会&シンポジウム 新学習指導要領の本質を一緒に考えましょう!

「これからの社会に必要なコンピテンシーと  
新しい学びとは」(仮)

シンポジスト



東京大学大学院  
教育学部教授  
**秋田 喜代美** 様  
○文部科学省教育政策委員会  
○文部科学省教育課程委員会  
○文部科学省教育審議会  
見識と実践の学習活動に関する  
ワーキンググループ委員



京都大学大学院  
教育学部教授  
**石井 英真** 様  
○文部科学省教育課程部  
見識と実践の学習活動に関する  
ワーキンググループ委員

コーディネーター



東洋大学  
教育科学部教育実践学専攻教授  
**後藤 顕一** 様  
○漢学習指導要領 理科専攻委員

フォーラム

ブースI

「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりについて



國學院大学 准教授  
**寺本 貴啓** 様  
著書「デザイン思考」から授業改善  
みる小学校のアクティブ・ラー  
ニング実践「異質・異能力者」の  
学習・対話的深い学び」(文部  
科学)で有名な寺本先生と、  
「異質・異能力者」の  
授業づくりに必要な見識や実践  
方法を教員と共有します。

ブースII

対話を生み出す授業づくりについて



新潟大学教職大学院 准教授  
**一柳 智紀** 様  
「主体的・対話的で深い学び」の  
授業づくりには不可欠な要素である対  
話の重要性、言葉を中心としたコ  
ミュニケーションの重要性から、生徒  
の学びの場をどう広げる、教師が  
どのようにデザインすればいい  
かを、一柳先生とともに質疑と共有  
します。

日程

8:40	9:10	9:55	11:00	11:50	12:35	13:55	15:25
受付	全体発表	公開I	公開II	朝食	フォーラム	協議会	講演会
9:05	9:40	10:45	11:50	12:35	13:40	15:15	16:45

附属新潟中はここにチャレンジ!

○全教科・領域の授業を公開します!  
○OECDが求めるコンピテンシーの概念  
(Knowledge, Skills, Attitudes & Values)を各科目の  
授業)を取り入れ、全教科で共通し、行動、振り返り  
(Anticipation, Action, Reflection=AAR)の継続し  
た学びの再構築の学びを推進してはいる「学びの再  
構築を促す」上」の取組について、質疑・能力の  
的の育成を生み出します!

授業の具体的な内容、申し込み方法については、  
9月月初に案内いたします。多くの御参加を希望し  
ております。当校の研究に関する  
ご質問・ご不明点等は、下記までお問い合わせください。  
研究主任 上村 慎高  
Tel.025-223-8341  
E-mail:kamimura@fchu.niigata-u.ac.jp

QRコード



## 新潟大学教育学部附属新潟中学校 令和元年度 教育研究発表会

日本の教育を牽引する先生方による講演会、シンポジウム、フォーラムを企画

期日：**令和元年10月18日(金)**

8:40~16:45

- 全教科・領域の公開授業ならびに協議会を実施します。
- 全体講演会&シンポジウムの講師として秋田 喜代美 様 (東京大学大学院)、石井 英真 様 (京都大学大学院)、コーディネーターとして、後藤 顕一 様 (東洋大学)をお招きします。
- さらに、新学習指導要領に関する具体的な実践を共有するために、フォーラムを開催し、寺本 貴啓 様 (國學院大學)、一柳 智紀 様 (新潟大学教職大学院)を講師としてお招きします。



# 実践を基にした当校の書籍を発刊



## 附属新潟中式 「3つの重点」を生かした 確かな学びを促す授業

教科独自の眼鏡を育むことが  
「主体的・対話的で深い学び」の  
鍵となる!

京都大学大学院准教授 石井英真氏 推薦 東洋大学教授 後藤頭一氏 推薦

新学習指導要領に対応した授業づくりのヒントが満載!附属新潟中式「確かな学びを促す3つの重点」-「意味ある文脈での課題設定」「対話を促す工夫」「学びの再構成を促す工夫」を基に、「早わかりポイント実践集」と「全教科領域の授業実記録」など各学校で自動化できる実践を豊富に紹介!さらに、生徒の学びを教科等横断的な視点からつなげる「カリキュラム・マネジメント」の実践も紹介!

新潟大学教育学部附属新潟中学校

東信堂

附属新潟中式

「主体的・対話的で深い学び」をデザインする

## 「学びの再構成」

新潟大学教育学部  
附属新潟中学校研究会 編著

- 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に取り組むために、どこから始めればいいのか?
- 「主体的・対話的で深い学び」を見える形でデザインすることは可能なのか?
- とりわけ「深い学び」を学校として全教科で同じ視点から授業をデザインすることは可能なのか?
- そして、「主体的・対話的で深い学び」を通して、生徒にどのような資質・能力を育成することができるのか?

新学習指導要領に対応した授業づくりを進めるにあたって、このような疑問を持ったことはありませんか?新学習指導要領に対応した授業づくりを、個人、さらには学校全体で推進したい皆様の思いに応えるべく、学校全体・全教科・領域の視点から実践をまとめました。それぞれの全教科・領域の実践を踏まえて、見開き2ページにまとめました!

特別巻頭言

新しい社会、新しい時代で自分の未来を切り拓く資質・能力を育成する教育や学びの在り方は何なのか?教育界を牽引する3名の先生方の特別巻頭言です!

京都大学  
高等教育センター教授  
松下佳代 氏

東洋大学  
食環境科学部食環境科学科教授  
後藤頭一 氏

京都大学  
大学院教育学研究科准教授  
石井英真 氏

東信堂

## <引用参考文献>

- 石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』日本標準
- 石井英真(2017)『アクティブ・ラーニングを越える授業』日本標準
- 後藤顕一(2013)「高等学校化学実験における自己評価の効果に関する研究—相互評価表を活用して—」『理科教育学研究』第54巻, 第1号, 13-26.
- 佐藤 学(1995)『学びの対話的实践へ』佐伯胖・藤田英典・佐藤学(編)『学びへの誘い』東京大学出版会
- 鈴木敏恵(2015)『キャリアストーリーをポートフォリオで実現する』日本看護協会出版会
- 田村 学 編著(2017)『カリキュラム・マネジメント入門—「深い学び」の授業デザイン。学びをつなぐ7つのミッション。—』東洋館出版社
- 田村 学(2018)『深い学び』東洋館出版社
- 新潟大学教育学部附属新潟中学校 編著(2017)『附属新潟中式「3つの重点」を生かした確かな学びを促す授業—教科独自の眼鏡を育むことが「主体的・対話的で深い学び」の鍵となる!』東信堂
- 新潟大学教育学部附属新潟中学校 編著(2019)『「主体的・対話的で深い学び」をデザインする「学びの再構成」』東信堂
- 西岡加名恵(2009)『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書
- 西岡加名恵, 石井英真, 田中耕治 編著(2015)『新しい教育評価入門 人を育てる評価のために』有斐閣コンパクト
- 西岡加名恵, 石井英真 編著(2019)『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価:「見方・考え方」をどう育てるか』日本標準
- 松沢伸二 著(2002)『英語教師のための新しい評価法』大修館書店
- 松沢伸二, 上村 慎吾, 関東甲信越英語教育学会第38回千葉研究大会, 国内会議, 2014年08月, 明海大学, 自律を育てる英語指導モデル—見直し振り返り用プログレスカードとポートフォリオを用いて—, 口頭(一般)
- 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 総則編』
- 文部科学省 教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ(2019)『児童生徒の学習評価の在り方について(報告)』